



第3回米・水田農業対策委員会を開催

道農連は9月3日、第3回米・水田農業対策委員会（大久保明義対策委員長）を開催し、秋闘に向けた課題や対策の方向性などを協議した。

秋闘対策をめぐるのは、米の需給がコロナ禍の緩和状態から一遍して逼迫する状況にあるが、これまで価格上昇の局面を迎えると主食用米への揺り戻しによって過剰作付が生じ、米価下落を繰り返してきた経過がある。また、2025年度予算概算要求において、水活は畑地化促進事業やコメ新市場開拓等促進事業を含め前年度同額の3,015億円を求めている一方、畑作物の本作化対策については予算編成過程で検討するとしている。

このため、秋闘に向けてはめぐる情勢を精査しながら、25年度予算概算要求の内容を踏まえて春闘の提言事項を再整理しつつ、米の生育状況を注視しながら運動を展開していくこととした。

また、委員会終了後には、2024年産米の概算金決定内容と北海道米販売戦略などについて、ホクレン米穀事業本部と意見交換を実施した。

アフリカ支援米の収穫イベントを各地で開催

食とみどり・水を守る全上川労農市民会議（構成団体：全上川農民連盟、連合北海道上川地域協議会など）は9月14日、旭川市東鷹栖で収穫イベントを開催し、市民会議の会員やその子ども、連合・農連役員ら42名が参加した。参加者は、支援米協力農家である高見章太氏のほ場にて作業の説明と注意事項を受けたのち、「ななつぼし」を丁寧に刈り取った。

このほか、9月28日には七飯町で収穫イベントを実施し、地元小学校の児童や労働組合関係者らが参加した。

なお、収穫された支援米については、食料不足に苦しむマリ共和国へ送られる予定となっている。

9月の活動記録（上記以外）

- 1日 在日米軍矢臼別への移転実弾演習に断固反対する全道総決起集会
- 2日 水田農業の在り方検討総括WG
- 18日 水活における換地の取扱いに係る打合せ、第2回てん菜・てん菜糖合理化検討委員会
- 26日 総括WGと農水省との意見交換

10月の活動予定

- 2日 食・みどり・水を守る道民の会幹事会
道農連女性書記の会定期総会・研修会（～3日）
- 4日 三役会議、第5回執行委員会
- 8日 水田農業の在り方検討連絡会議
- 10日 道農業再生協議会第1回水田部会
- 23日 第4回米・水田農業対策委員会（予定）
- 25日 第3回畑作・野菜対策委員会（予定）

◎詳しくは、「北海道農村新聞」（年間購読料1,800円・税込）をご覧ください。

お申し込み・お問い合わせは、道農連事務局（TEL011-241-5416）まで。

道農連 HP はこちら ⇒ <http://donouren.sakura.ne.jp/>

